



三条北ロータリークラブ週報

ENJOY ROTARY!

ロータリーを楽しもう!

国際ロータリー会長 ヒュー M. アーチャー 第256地区ガバナー 吉野一郎

例会日

1989. 8 . 29

累計 No 137

当年 No 8

会長／平松利朗

幹事／稲田憲治

SAA／笹原勝治

例会日／火曜日 PM12:30～1:30

例会場／三条ロイヤルホテル ☎34-8111

事務局／三条市西四日町3-15-34
ヒューマン・ハーバー内 ☎35-7160

行事：「夏の日の思い出」稲田憲治君

出席：本日の出席 47名中36名

先週の出席率 47名中42名 89.36%

先週のメイクアップ：8月9日 三条RCへ 角田宏衛君

8月23日 三条RCへ 米山忠俊君

8月28日 三条南RCへ 羽賀一夫君 芦田義重君

ビジター：三条RCより 野水文治君 古沢富雄君 轡田秋夫君

三条南RCより 宮原正徳君 荏沢喜一郎君 竹山昭二君

会長挨拶：平松利朗

昨日の台風一過で今日は青空が広がっております。昼間の陽差しはまださすがに強いですが、朝晩はめっきり涼しくなりました。空に浮かぶ雲にも、頬を伝わる風にも秋の気配が感じられる今日この頃です。子供達も、残り少なくなった夏休みに、宿題の最後の追い込みに懸命だと思います。間もなく始まる二学期、楽しい夏休みの思い出をいっぱいもって元気よく登校することでしょう。本日の卓話は、稲田幹事が行く夏を惜しんで「夏の日の思い出」と題して話をしてくれることになっており、大いに楽しみにしております。さて、次の日曜日、新潟市で東部IGFが開られます。IGFの意味については大半の会員は既にご存知と思いますが、新人会員も義務出席なので簡単に説明しておきます。IGFはInter-City General Forumの略で「都市連合公開討論会」と訳されております。平たく言えば、近隣のクラブの代表が集まって「クラブ活動の実例」や「委員会のあり方」「例会の楽しさ」を学び合うための集まりであります。全体会議の他に分科会にも分け、予め設けられたテーマに基き、結論にとらわれず、自由、活発に討論するロータリーの勉強会であります。また、懇親会では近隣のロータリアンと知り合いを広め、親睦を深めることになっております。当日の参加者は北RCの代表として、それぞれの分科会に出席され、存分に勉強して頂き、今後の委員会活動の糧にしてもらうようお願いを致します。

幹事報告： 稲田幹事

◇吉田RC例会変更

9月1日(金) 夜例会 和納りようごん寺

9月15日(金) 城山公園ハイキング

9月22日(金) 休会

◇自衛隊音楽演奏会のご案内

日時 9月10(日) 会場 新潟県民会館大ホール

ニコニコボックス：

平松利朗君 会社の看板がはずれて宙吊り。幸いに電線に支えられ、ケガなし。イカッター／
中條耕二君 久しぶりのホームクラブの出席です。今月はヨーロッパへ行って来ました。三条
クラブの野水先輩は私のスポンサーです。ビジターの方々のご来訪を心から歓迎
します。

粉川昭蔵君 今月も無事終了そうです。来月も良い月であります様に。

高橋彰雄君 ボックスに協力して。

外山晴一君 稲田さんの卓話楽しみです。

村山誠一君 BOX協力。

丸山誠一君 「いくじなし」の稲ちゃんまってきました。

笹原勝治君 幹事の卓話いくじなしその後に期待して。

山崎 勲 君 連日連夜の活躍で、ダウン気味です。

米山奨学：

佐藤啓策君 長女が、アメリカのホームステイより無事帰って来ました。アメリカの実情を
色々聞いてびっくりする事が多く、アメリカ人に見習う事が多くあり喜んでいま
す。

ロータリー財団：

芦田義重君 朝夕涼しくなりました。財団も涼しそうなのでBOXに協力して、又、エンタテ
ーナ稲田君の卓話期待しています!!。

卓話： 「夏の日の思い出」稲田憲治君

その昔、五ノ町は栄えた時代があった。五十嵐川と信濃川の合流点という、恵まれた交通条件下
に育まれたスポットであった。蒸気船の往来、軒を並べた料亭、魚問屋、にぎわい、そして子供
達。コンクリートもアスファルトも無い、風と声と陽の光が生活の中で生きていた。そんな風景が
セピア色に変わってしまった。幼い頃の五ノ町ではあったが、自然に支えられた独自の文化があっ
た。五ノ町の土手から河原へ下がる途中に、大きなクルミの木が1本あった。蟬の音が真昼の焼け
た空気を更に焼きつけている。私と4歳年上の小5になるYは、河原へおりて板切れに食用蛙の手



足をクギで打ちつける。茶色のガラス瓶のかけらで腹を切り裂く。ピ
ンクや黄色や緑色の臓器をつまみ出し、胃袋の中から形を半分失いか
けた昆虫を見つけては狂喜した。カラッポの腹部の底部で白く走る脊
髄、リズムを刻む心臓、それでも蛙はぴょんと跳ねた。数時間もする
と、腸は黒くカラカラに変色し縮れた。当時の私には、そんな行為に
なんの抵抗もなかった。まして残酷などとも考えなかったのであろ
う。哀れみ、嫌悪感とかいう人間の感情は環境、習慣という自ら置か
れた、大きな流れの中で育てあげられるものである。Yと私は、その

日ただただ知識欲を満足させる為だけに、Mさんのミケを縄で逆さ吊りにした。そして当時木橋だ
った嵐川橋から川の中へ投げた。ホコリで白い欄干が手の平の汗で黒くなった。身を乗り出し縄を
ゆるめた。顔からいくつもの汗粒が川面へ落ちた。縁がかった水中で茶色の猫は、白く小さな泡を
数え切れない程出して、動かなくなった。川面へ伸びた縄が細くピンと張った。引きあげられた猫
は毛が体に貼りつき小さくなっていた。焦点を失った眼球、半開きの口から小さな歯と舌がだらし
なく出ていた。部分的に張れた大きな腹を押したら、透明な液体が出た。温かかった。屍はカラス
に食わせることにした。Yがクルミの木に登って猫を一番高い枝につるした。たえ間なく落ちるし
ずくが、乾いた灰の様な土の上でポツポツと音をたてていた。見上げるクルミの葉の間から鮮烈に
差し込む太陽がまぶしかった。流れる額の汗を手の甲でぬぐっていた。

9月5日例会： クラブアッセンブリー 新潟東部IGF報告会

9月12日例会： 高齢者問題委員会